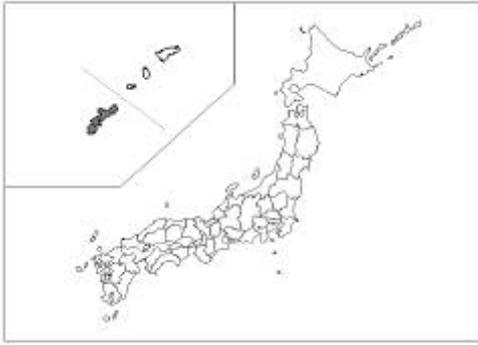


(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は緩やかな改善が続いている。

- ・ 観光は増加している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている。

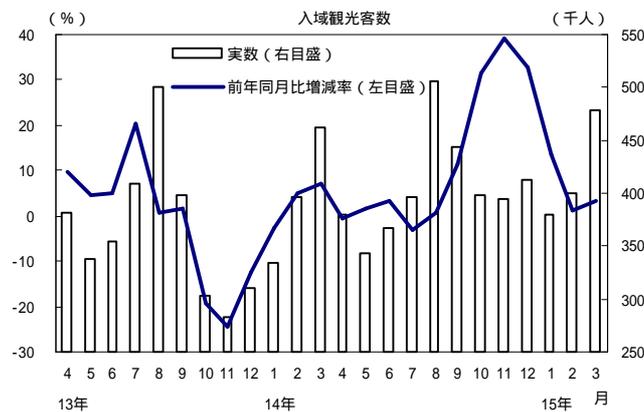
前回調査からの主要変更点

	前回（平成15年2月）	今回（平成15年5月）	
住宅建設	おおむね横ばい	増加	

1. 観光及び企業動向

(1) 観光は増加している。

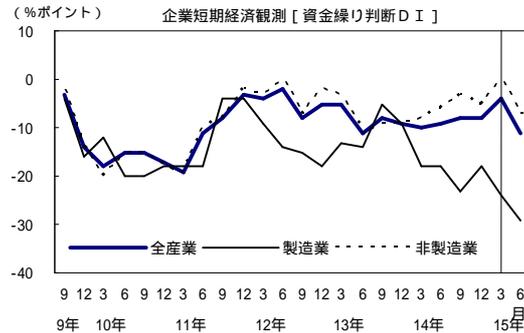
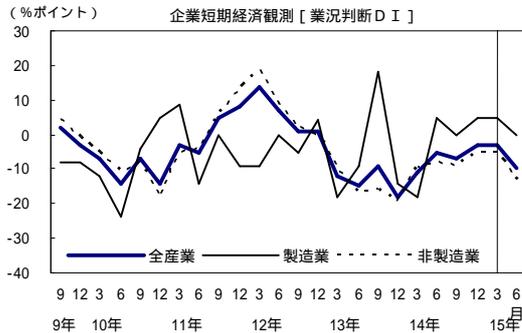
入域観光客数は、1月は年末年始の連休の並びが良かったこと、2月は主要航路である阪神、名古屋の便数増加や、地方路線である花巻、青森の期間運行があったことなどから、各月の過去最高を記録した。3月はイラク情勢の影響から修学旅行や団体客のキャンセルが一部発生したものの、個人客が好調に推移したことから、同月の過去最高を記録した。また、主要ホテルの客室稼働率についても高水準で推移している。



(備考) 入域観光客数は沖縄県観光リゾート局調べ。

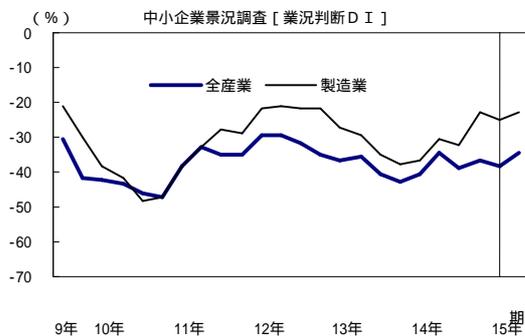
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年6月は予測。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年6月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。
九州地区のDI。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「入学、転職シーズンで、引っ越し、事務用品等の物量は前年より減少しているものの、2、3か月前よりは増加している(輸送業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の14年度実績見込みは13年度実績を上回っている。

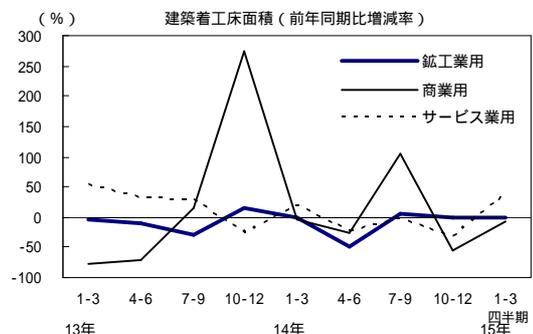
14年度の設備投資額は、製造業では食品を中心に前年度を下回るものの、ウェイトの高い非製造業において大型スーパーの新規出店等により前年度を上回ることから、全産業では13年度を上回る見通しとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比増減率、単位:%)

	14年度実績見込み	15年度計画
全産業	22.9(3.1)	10.3
製造業	27.8(7.9)	33.4
非製造業	29.6(4.0)	13.5

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いている。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額

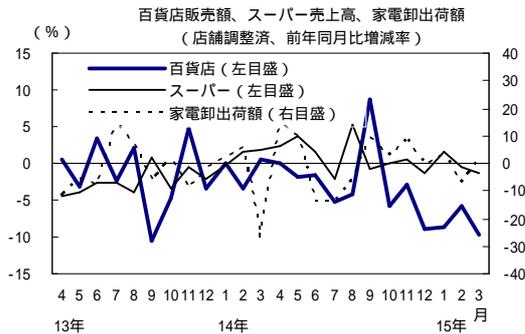
百貨店は、新規の大型スーパーやアウトレットモールの出店の影響が続いているうえ、3月は気温が低く、衣料品の春夏物の出足が鈍かったことから前年を大幅に下回った。

スーパーは、1月は旧正月が前年に比べ早まったことなどから食料品販売が伸びたが、3月の衣料品の不調から全体では横ばいとなった。なお、新規出店効果の持続から全店ベースでは前年を上回っている。

家電は、エアコンやパソコンが低調であったが、DVDやカメラ付き携帯電話などの高付加価値商品が好調に推移したことから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「客が目的以外の商品をなかなか手に取らなくなっており、また、買い物に来て衝動買いをすることがなくなっている(その他専門店[書籍])」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



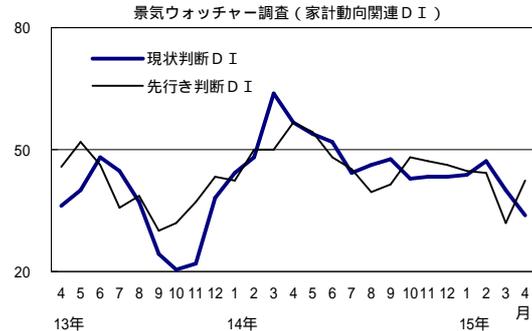
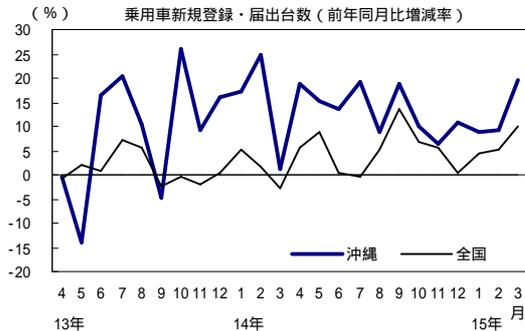
(前年同期比増減率、単位：%)

	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月
百貨店	1.0	0.9	6.3	8.3
スーパー	2.5	3.4	0.4	0.0
家電卸出荷額	1.1	5.2	3.1	0.7
乗用車	15.7	16.2	9.2	14.4
景気ウォッチャー	53.9	46.0	43.2	43.8

(備考) 1. 百貨店販売額、家電卸出荷額は沖縄銀行調べ。

2. スーパー売上高は日本銀行那覇支店調べ、店舗調整済。

3. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。

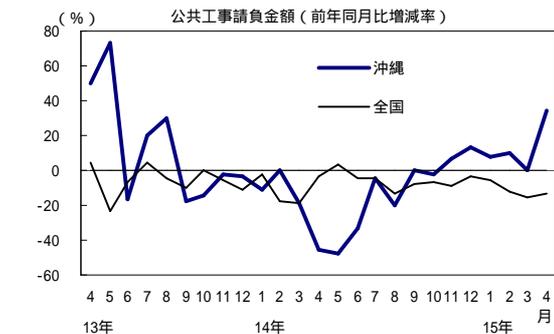
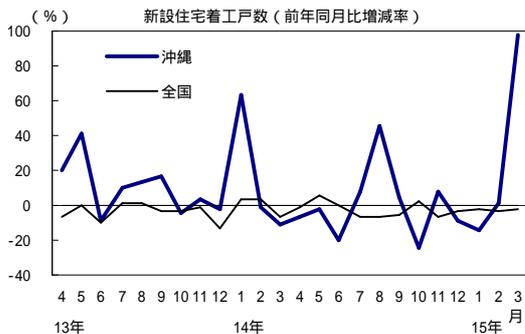


(2) 住宅建設は増加している。

貸家を中心に前年を大きく上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は14年度累計で見ると13年度を下回っている。

15年1～3月期では3.6%増加したが、14年度累計では8.4%減少している。

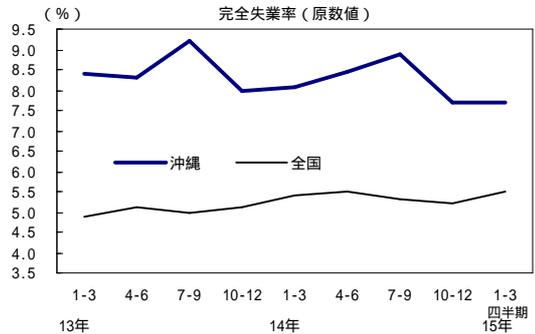
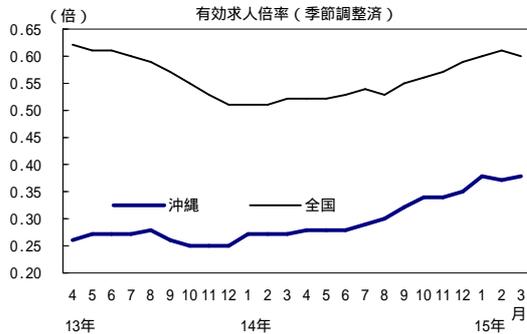


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っているが、高い水準にある。



(備考) 失業率は、沖縄県企画開発部統計課「労働力調査」より。

景気ウォッチャー調査 (4月調査)[雇用関連 (現状判断)]

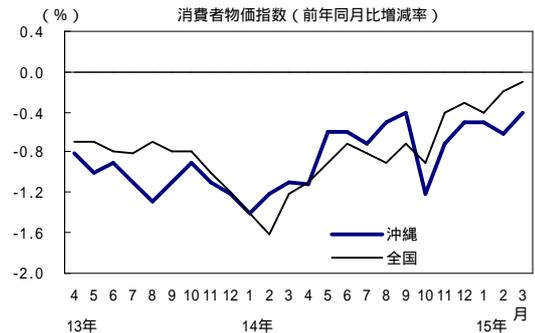
「派遣依頼は増加しているものの、契約更新をストップする企業もあり、結果としてプラスマイナスゼロという状態である (人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月	15年4月
倒産件数	26	33	26	26	8
(前年比)	13.3	5.7	13.3	7.1	0.0
負債総額	56	73	85	207	17
(前年比)	77.3	50.7	16.2	191.6	103.4



景気ウォッチャー調査 (4月調査)[合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・新聞等の観光関係の発表内容によると、入域観光客数は増加しているが、来客数は極端に減少している。同業者からも客の入りが悪いとの話が聞かれる (高級レストラン)

<先行き>

- ・SARSの影響で、海外からの振替旅行者などが一時的に沖縄に来ている。ただし、この問題の長期化は、旅行観光業界には大きなダメージとなりうる (観光型ホテル)

